

Ⅱ 点検・評価結果

6 地域教育力の活性化

教育大綱重点取組**地域教育力の活性化****教育大綱重点取組を推進する体制(構成取組)**

①地域教育協議会活動推進事業	②学校安全体制整備推進事業	③ねやがわ子どもフォーラム事業
④家庭教育サポートチーム派遣事業	⑤家庭教育学級事業	⑥子どもへの暴力防止プログラム実施事業
⑦学校支援地域本部事業		

平成 27 年度決算(見込み)

取組に係る費用	単位	平成 27 年度
事業費	千円	17,379

教育大綱実施計画における取組概要(平成 27 年度～30 年度)

地域コミュニティを更に活性化するために、講演会やイベント、子ども安全見守り隊等を活用し、学校・家庭・地域・行政が連携して社会全体で子どもを守る環境を構築する。

また、子育て等に不安や悩みを抱える保護者に対し、家庭教育サポーターを派遣し、支援を行うことや、講演会等を通じて、学校・家庭・地域の在り方を考える機会を提供する。

教育大綱実施計画における取組の方向性(目標)(平成 27 年度～30 年度)

「地域の子どもは地域で育てる」を目標に地域の人材を活用し、子育てに不安や悩みを抱える保護者が、自信を持って子育てをし、子どもが自己肯定感を持って健やかに成長するように支援することによって、地域教育力の活性化を図る。

成果・効果等を表す取組指標

指標名	単位	平成 27 年度		
		目標値	実績値	達成度コメント
家庭教育サポーターの活動回数	回	5,750	6,096	保護者へのサポーターの認知も進み、各小学校からの派遣ニーズも増加していることから、家庭訪問回数や相談件数も着実に増加した。
安全見守り隊の登録者数	人	5,500	4,937	例年以上に見守り活動や地域パトロールは活発に実施されたが、これらを機会として、継続的に見守り隊として参画していただくための周知・啓発活動が不足したため。

平成 27 年度における取組状況

構成取組①	地域教育協議会活動推進事業
-------	---------------

計画 (Plan)

各中学校区において、各地域の実情や社会情勢を踏まえた講演会やイベント等の事業を実施する。

取組内容 (Do)

子どもたちを安全安心に守り育てる事業の実施

各小中学校でのあいさつ運動のほか、8月以降は校区パトロール活動等を充実し実施した。

寝屋川市地域教育協議会（委員数 13 人）を年 2 回開催し、地域ごとの課題等を共有するとともに、今後の地域教育協議会で取り組むべき事業等について意見交換を実施した。

【地域教育協議会活動推進事業内容】

中学校区	主な事業内容
第一中学校	挨拶運動・フェスタ・パトロール・清掃活動・講演会
第二中学校	コンサート・栽培活動・挨拶運動・パトロール等
第三中学校	交流会・冬まつり・挨拶運動・巡回懇談会
第四中学校	フェスタ・清掃活動・パトロール
第五中学校	奉仕活動・スポーツデイ・フェスタ・講演会・交流会
第六中学校	ふれ愛まつり・天体観測・挨拶運動・吹奏楽
第七中学校	作文コンクール・挨拶運動・奉仕活動・講演会
第八中学校	グランドゴルフ・盆踊り・挨拶運動・パトロール
第九中学校	講演会・挨拶運動・パトロール・啓発パレード
第十中学校	フェスタ・清掃活動・パトロール・ウォークラリー
友呂岐中学校	デイキャンプ・挨拶運動・パトロール・意見交換会
中木田中学校	花火のタベ・職場体験・挨拶運動・パトロール・講演会

活動指標等	単位	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度
		(実績値)	(実績値)	(見込値)	(見込値)	(見込値)
地域教育コミュニティ事業の参加者数	人	38,731	38,300	40,000	41,000	42,000
各地域教育協議会への情報提供回数	回	21	15	26	28	30

評価 (Check)

寝屋川市地域教育協議会において積極的な意見交換により、中学校区ごとの実情に応じた特色ある事業が実施された。

各中学校区の地域教育協議会事業を更に活性化するため、それぞれの地域教育協議会で実施している取組や事業を共有できるように、定期的に情報提供できる仕組みづくりが必要である。

評定		今後の方向性 (Innovation)
B	A: 達成している (90%以上)	<p>各地域教育協議会の自主性を尊重しつつ、市全体としての課題に対応した事業に取り組むなど、より一層、学校・家庭・地域の連携強化により、地域コミュニティの更なる活性化を図るとともに、新たに「子どもを守る事業」及び「社会規範・マナーを学ぶ事業」に取り組んでいく。</p>
	B: おおむね達成している (70%以上 90%未満)	
	C: 一部達成であり、課題が残る (50%以上 70%未満)	
	D: 達成できていない (50%未満)	

平成 27 年度における取組状況

構成取組②	学校安全体制整備推進事業
-------	--------------

計画 (Plan)

安全見守り隊による登下校時の見守り活動や地域パトロールカーによる巡回を強化し、子どもたちの安全安心を確保する。

取組内容 (Do)

登下校時の見守り活動

安全見守り隊に活動時に着用するベストを配付し、子ども達の安全を確保するとともに、地域住民への参加啓発及び安全啓発を実施した。

「こども 110 番の家」の旗の掲出を充実するため、家庭やコンビニエンスストア、事業所等に掲出への協力依頼を行うとともに、小学校や PTA を通じて古くなった旗の交換を実施し、より一層の視認性向上を図った。

活動指標等	単位	26 年度 (実績値)	27 年度 (実績値)	28 年度 (見込値)	29 年度 (見込値)	30 年度 (見込値)
こども 110 番協力軒数	軒	4,861	3,297	5,200	5,400	5,600

取組内容（活動状況）

【学校安全体制整備推進事業取組状況】

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
見守り隊登録者数 (24 小学校)	5,303 人	5,315 人	4,937 人
地域パトロールカー 年間平均稼働日数	105 日/校	105 日/校	111 日/校

評価（Check）

これまでも各小学校区で様々な見守り活動等を継続的に実施していたが、8月に発生した中学生の事件を受け、安全見守り隊の活動に多数の地域住民が自発的に参加するなど、全市的な「地域で子どもを守る」活動の中心的役割を担った。

また、こども 110 番の家の旗に関しては、小学校や PTA を通じて古くなった旗の交換を実施し、より一層の視認性向上を図った。

評定

今後の方向性（Innovation）

B	A: 達成している (90%以上)	<p>「子どもを守る」との意識が全市的に高まっており、1人でも多くの地域住民に参加していただけるよう、見守り活動・こども 110 番の家・地域パトロールカーによる巡回や進入禁止路の安全確保策の検討など、様々な「子どもを守る」活動を更に充実していく。</p>
	B: おおむね達成している (70%以上 90%未満)	
	C: 一部達成であり、課題が残る (50%以上 70%未満)	
	D: 達成できていない (50%未満)	

平成 27 年度における取組状況

構成取組③	ねやがわ子どもフォーラム事業
-------	----------------

計画 (Plan)

子どもに関わる全ての大人たちが、家庭・学校・地域における子育ての充実及び社会全体の支援の在り方、子どもたちの健やかな成長を願う機会として、学校・地域における家庭教育推進の取組報告や有識者による講演会を開催する。

取組内容 (Do)

子どもに関わる関係団体との連携による開催

事業の名称を「元気子どもフォーラム」から「ねやがわ子どもフォーラム」に変更し、子どもの安全対策や子どもをもつ家庭が安心して子育てができるよう、学校・家庭・地域が一体となって、子どもたちを支え、育んでいくという機運を高めるため、子どもに関わる関係団体が参画する実行委員会に事業を委託し、全体講演会及び4つの分科会を中央公民館で開催した。

<実行委員会参画団体>

- ・寝屋川市立校園PTA協議会
- ・寝屋川市青少年指導員会
- ・寝屋川市地域教育協議会
- ・寝屋川市家庭教育支援連絡会
- ・寝屋川市民生委員児童委員協議会

<テーマ>

学校・家庭・地域で育てる～子どもの明るい未来のために～

<内容>

- ・全体講演会 「落語から子育てを学ぶ」 笑福亭松枝氏（落語家）
- ・分科会
 - ①「楽しく子育て～笑顔だけで子どもは変わる～」
原坂一郎氏（こどもコンサルタント）
《対象：未就学児・小学生の保護者等》
 - ②「子どもの虐待～地域でできること～」
津村薫氏（女性ライフサイクル研究所フェリアン副所長）
《対象：未就学児・小中学生の保護者等》
 - ③「思春期の子育て～今から、ここからできること～」
金香百合氏（HEAL ホリスティック教育実践研究所所長）
《対象：中高生の保護者等》
 - ④「スマホ時代のリスクとスキル」
竹内和雄氏（兵庫県立大学環境人間学部准教授）
《対象：青少年の保護者等》

<参加者数>

- ・全体講演会 412名
- ・分科会（合計） 425名

活動指標等		単位	26年度 (実績値)	27年度 (実績値)	28年度 (見込値)	29年度 (見込値)	30年度 (見込値)
ねやがわ子どもフォーラム事業 の満足度		%	98.0	99.4	100	100	100
評価 (Check)							
<p>実行委員会に子どもに関わる関係団体が参画し、教育と福祉の垣根を越えた議論の中から、テーマや内容を決定した。</p> <p>分科会では、対象別に4つのテーマを設定し、思春期の子どもへの対応など今直面する問題を取り上げるなど、ニーズに応じた子育て支援の在り方について考え学ぶ機会となった。</p>							
評定		今後の方向性 (Innovation)					
A	A: 達成している (90%以上)	<p>時事に即した市民ニーズの把握に努め、全体講演会や対象別の分科会を実施し、子どもと学校・家庭・地域の関わりを考える機会として充実を目指すとともに、子どもたちの健やかな成長のための取組として、子どもに関わる関係団体と連携し実施する。</p>					
	B: おおむね達成している (70%以上 90%未満)						
	C: 一部達成であり、 課題が残る (50%以上 70%未満)						
	D: 達成できていない (50%未満)						

平成 27 年度における取組状況

構成取組④	家庭教育サポートチーム派遣事業
-------	-----------------

計画 (Plan)

子育てに不安や悩みを抱える家庭に対して、教員でない「家庭教育サポートチーム」を派遣し、学校と連携して、家庭の健全化を目指し、青少年の健全育成につなげていく。また、保護者支援を行い悩みの軽減等を図ることにより、児童虐待の予防にもつなげる。

取組内容 (Do)

市内 12 中学校区の 12 小学校に 12 人の家庭教育サポーターを配置し、不登校傾向にある児童や要支援家庭への家庭訪問や相談活動を行う中で、児童や家庭の情報をつかみ、学校へ情報提供を行うとともに、ケースに応じて主任児童委員と連携して活動した。

また、学校内においては、授業中の校内を見回り、児童の様子を観察や保健室来室児童の様子を観察するとともに、給食の喫食状況を観察し、家庭における食事の状況の参考にするなど、家庭支援につなぐための児童への対応を行った。

活動指標等	単位	26 年度 (実績値)	27 年度 (実績値)	28 年度 (見込値)	29 年度 (見込値)	30 年度 (見込値)
家庭教育サポーター活動回数	回	5,250	6,096	6,250	6,750	7,250

取組内容（活動状況）

＜活動実績＞

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
家庭訪問回数	1,975 回	2,533 回	2,768 回
相談回数	1,769 回	2,717 回	3,328 回
児童対応回数	2,124 回	4,601 回	4,754 回

※平成 25 年度の児童対応は 10 月から開始

＜研修会等＞

スキルアップ研修会（4 回）、サポーター交流会（1 回）を実施した。

評価（Check）

家庭教育サポートチーム派遣事業の子育てに不安や悩みを抱えた保護者への周知が一層進み、各小学校からの派遣ニーズも増加し、サポーターの家庭訪問回数や相談件数も増加している。

また、児童対応は、その背景にある家庭や保護者の状況を把握する上において必要不可欠なものとなっている。

評定

今後の方向性（Innovation）

A	A: 達成している (90%以上)	孤立する家庭への支援や家庭の健全化を図っていくためにサポーターの資質の向上と配置校を増やすとともに、スクールソーシャルワーカーや民生委員児童委員と一層連携を図る必要がある。
	B: おおむね達成している (70%以上 90%未満)	
	C: 一部達成であり、課題が残る (50%以上 70%未満)	
	D: 達成できていない (50%未満)	

平成 27 年度における取組状況

構成取組⑤	家庭教育学級事業
-------	----------

計画 (Plan)

不安や悩みを抱える子育て世代の市民を対象に、家庭教育の充実を図るため、情報・学習の場の提供や、交流・仲間づくりを目的にした講座を開設する。

また、市立の全小学3年生で実施している「こどものCAP（こどもへの虐待防止プログラム）」の内容を保護者にも学ぶ機会を提供するため、「おとなのCAP」を実施し、家庭での共有化を図る。

取組内容 (Do)

家庭教育講座

家庭教育学級として、市内12中学校区において「家庭教育講座」を開催するとともに、2つのコミュニティセンターで連続講座を開催し、保護者が孤立しないための支援などを行った。

わいわい楽しく子育て広場

子育て世代を対象に、子育ての不安や悩みを共有できる場として、また、保護者の孤立化の防止や仲間づくりを目的として、講座やサロンを保育付きで実施した。

家庭教育支援者スキルアップ講習会

家庭教育支援者スキルアップ講習会を開催し、家庭教育サポーターや家庭教育学級ファシリテーターとして、本市の家庭教育を支援する人材の育成を行った。

また、おとなのCAPについて、子どもの権利を守り、子どもを孤立させず、子どもを援助するために大人は何ができるかなどの知識や技術を学ぶ機会を提供するため、おとなのCAPを実施した。

活動指標等	単位	26年度 (実績値)	27年度 (実績値)	28年度 (見込値)	29年度 (見込値)	30年度 (見込値)
家庭教育学級事業への参加者数	人	1,229	1,097	1,400	1,500	1,600
家庭教育学級参加者満足度	%	96	96	100	100	100

取組内容（活動状況）

<実施状況>

内 容	場 所	回数	受講者	保育児	満足度
家庭教育講座	市内 12 中学校区	12 回	763 人	-	94%
わいわい楽しく 子育て広場	教育センター	4 回	18 人	21 人	100%
	西北コミセン	4 回	68 人	75 人	95%
	計	8 回	86 人	96 人	98%
家庭教育支援者 スキルアップ講習会	エスポアール	6 回	194 人	-	95%
おとなの CAP	エスポアール	1 回	54 人	2 人	96%
合 計			1,097 人	98 人	96%

評価（Check）

わいわい楽しく子育て広場では、参加者から「自分の時間が持ててリフレッシュでき、知り合いもできた」、「自分の子育てを振り返る機会となった。」など、満足度の高い声が聞かれた。

また、家庭教育講座については 12 小学校の主催で、家庭・地域・教職員の方々に対し、家庭教育に対する学習機会を提供することができた。

家庭教育支援者スキルアップ講習会では、家庭教育支援者の資質の向上を図ることができた。

評定

今後の方向性（Innovation）

B	A: 達成している (90%以上)	<p>わいわい楽しく子育て広場や家庭教育講座については、子育てや家庭教育を学ぶ機会として、引き続き実施するとともに、おとなの CAP については、子どもが学んだことを家庭内で共有することで、効果が高められることから、実施回数を増やし学習機会の提供に努める。 また、家庭教育支援者の資質の一層の向上を図る。</p>
	B: おおむね達成している (70%以上 90%未満)	
	C: 一部達成であり、課題が残る (50%以上 70%未満)	
	D: 達成できていない (50%未満)	

平成 27 年度における取組状況

構成取組⑥	子どもへの暴力防止プログラム実施事業
-------	--------------------

計画 (Plan)

子どもが関わる暴力（いじめ、虐待、誘拐、性的暴力等）を防止するための教育プログラム（CAP）を実践的に子どもに学ばせる機会を提供し、子どもが主体的に暴力に対応できるようになることを目的とし、市立全小学3年生を対象に実施する。

取組内容 (Do)

CAPプログラムの学校との情報共有の実施

事前に CAP スペシャリストと学校とが打合せを行い、児童の現状を把握しその状況に応じた内容で、市内 24 小学校の 3 年生 60 クラスにおいて実施した。

また、主任児童委員や警察署員等が見学し、児童に関わる大人も CAP を理解し、児童への対応を学ぶことができた。

<実施状況>

- ・平成 25 年度
58 クラス 1,944 人
- ・平成 26 年度
56 クラス 1,873 人
- ・平成 27 年度
60 クラス 1,932 人

活動指標等	単位	26 年度 (実績値)	27 年度 (実績値)	28 年度 (見込値)	29 年度 (見込値)	30 年度 (見込値)
対象児童の理解度	%	100	100	100	100	100

評価 (Check)

CAP スペシャリストと学校との綿密な打合せにより、配慮の行き届いた指導を行うことができ、児童にとっても受け入れやすい内容となった。

また、児童に関わる関係者も、CAP や児童への対応を学ぶ機会となった。

評定	今後の方向性 (Innovation)
A	<p>子どもの安全・安心を守るため、今後も引き続き市内全小学校の3年生を対象に CAP を実施していくとともに、他学年での実施についても検討していく。</p>
A: 達成している (90%以上)	
B: おおむね達成している (70%以上 90%未満)	
C: 一部達成であり、課題が残る (50%以上 70%未満)	
D: 達成できていない (50%未満)	

平成 27 年度における取組状況

構成取組⑦	学校支援地域本部事業
-------	------------

計画 (Plan)

学校教育を地域コミュニティ全体で支援するため、各学校からの要請等に応じた的確かつ積極的な地域ボランティアの活用を促していく。

取組内容 (Do)

学校支援ボランティア活動の実施

子どもの安全安心・学校教育活動支援・校内環境整備など、各校からのニーズに応じた活動を提供した。

また、各地域教育協議会への委託事業であり、寝屋川市地域教育協議会において情報交換を行い、先駆的活動などの情報共有を図った。

活動指標等	単位	26年度 (実績値)	27年度 (実績値)	28年度 (見込値)	29年度 (見込値)	30年度 (見込値)
学校支援地域本部事業の活動回数	回	8,593	7,996	8,700	8,750	8,800
ボランティア活動人数	人	118,835	113,503	120,100	120,200	120,300

取組内容 (活動状況)

【学校支援地域本部事業参加状況】

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
学校支援コーディネーター数	38 人	63 人	41 人

評価 (Check)

学校教育を支援する組織体制は概ね整備されているものの、活動回数が平成 23 年度をピークに減少傾向にあり、平成 27 年度においても減少する結果となった。

評価 (Check)

評価	今後の方向性 (Innovation)
B A: 達成している (90%以上) B: おおむね達成している (70%以上 90%未満) C: 一部達成であり、課題が残る (50%以上 70%未満) D: 達成できていない (50%未満)	受託団体及び各学校へのヒアリング調査などにより、意見・要望を聴取するとともに、減少傾向の要因分析を行い、事業の在り方を根本的に検討していく。

教育大綱重点取組の総合評価

①地域教育協議会活動推進事業	B	⑨	
②学校安全体制整備推進事業	B	⑩	
③ねやがわ子どもフォーラム事業	A	⑪	
④家庭教育サポートチーム派遣事業	A	⑫	
⑤家庭教育学級事業	B	⑬	
⑥子どもへの暴力防止プログラム実施事業	A	⑭	
⑦学校支援地域本部事業	B	⑮	
⑧		⑯	
<p>上記については、重点取組内の構成取組における評 定を記入し、評定平均を計算。</p> <p>評定点数 A = 5、B = 3、C = 2、D = 1</p>		<p>総合評価基準</p> <p>A：取組評価平均 4.0 以上</p> <p>B：取組評価平均 2.5 以上 4.0 未満</p> <p>C：取組評価平均 1.5 以上 2.5 未満</p> <p>D：取組評価平均 1.5 未満</p>	
評定平均	3.9	総合評価	B
アドバイザーからの意見			
<ul style="list-style-type: none"> 「学校支援地域本部事業」と「地域教育協議会活動推進事業」については、事業運営主体が両事業とも実質的には地域教育協議会となっており、重複内容も多く棲み分けが難しい。将来的には、学校支援地域本部事業は発展的に解消される可能性もあり、そのことも見据えて両事業の今後の関連性、方向性を検討し、事業を推進していくことが重要である。 現在の少年警察活動においては、子どもたちを非行に走らせない、非行に走った子どもたちをいかにして更生させるかといったことが重視されており、教育について警察から学ぶことも多いと考えている。そのような意味でも、学校と警察との連携は重要であり、先進的な自治体の取組も参考にし、効果的な取組を推進していくことが必要である。 			
総合評価			
<p>相談活動や訪問活動、講座・講演会などの実施により、子育てに不安や悩みを抱える保護者が自信を持って子育てできる切っ掛けとなるとともに、学校と連携したサポート体制の構築ができた。</p> <p>また、学校・家庭・地域と行政が「子どもを守る」との共通認識の下、積極的に見守り活動や地域パトロールを実施するなど、地域で守り育てる意識が高まっている。</p>			

7 青少年の健全育成

教育大綱重点取組	青少年の健全育成
-----------------	-----------------

教育大綱重点取組を推進する体制(構成取組)

①放課後子供教室事業	②留守家庭児童会児童健全育成事業	③青少年リーダー育成事業
④青少年の居場所づくり事業	⑤成人式事業	⑥青少年健全育成推進事業

平成 27 年度決算(見込み)

取組に係る費用	単位	平成 27 年度
事業費	千円	197,778

教育大綱実施計画における取組概要(平成 27 年度～30 年度)

全ての児童にとって安全・安心な放課後の居場所づくりを推進するため、「放課後子供教室事業」及び「留守家庭児童会事業」を実施する。

子ども・子育て支援新制度により対象児童が小学6年生までに拡充されたことを受け、入会児童の増加に伴う、環境整備を実施する。

市内在住・在学の小学生からおおむね30歳までの若者が、社会体験、ボランティア活動やキャンプ活動を通じて、次代を担う青少年リーダーを育成する。

中学生以上の青少年が、安全・安心に集える場所として青少年の居場所を増設する。

教育大綱実施計画における取組の方向性(目標)(平成 27 年度～30 年度)

「放課後子ども総合プラン」に基づき、放課後児童対策事業の一体化を進め、留守家庭児童会は、小学6年生まで活動の場を確保しつつ、児童支援員の確保及び資質向上を目指す。

青少年リーダー育成事業では、ユースリーダーの資質向上を図りながら事業の企画立案運営ができるようにサポートする。市内の青少年が、安全・安心に集える場所として、池の里市民交流センターの青少年の居場所「スマイル」を拡充するとともに、こどもセンターに青少年の居場所を新たに開設し、次代を担う青少年リーダーの組織化を目指す。

成果・効果等を表す取組指標

指標名	単位	平成 27 年度		
		目標値	実績値	達成度コメント
青少年活動の参加者数	人	9,960	12,296	青少年の居場所や青年祭など、市民等への認知度が向上したことに伴い、参加者数を増加することができた。

平成 27 年度における取組状況

構成取組①	放課後子供教室事業
--------------	------------------

計画 (Plan)

子どもにとって安全で安心な放課後の小学校施設を活用し、地域住民の参画や協力によりスポーツや文化活動など様々なプログラムを提供することで、青少年の健全育成を推進する。

取組内容 (Do)

小学校の校庭や体育館等の学校施設を活用して、安全・安心な子どもの居場所（活動拠点）を設け、地域全体が一体となって、学習やスポーツ・文化活動などの体験活動を子どもたちに提供し、未来の寝屋川市を担う子どもの心豊かでたくましい成長を育むために、地域の様々な方々が各小学校区単位で設立する放課後子供教室実行委員会に委託し、放課後子供教室を実施した。

また、平成 28 年度から寝屋川市放課後子ども総合プランが施行されることに伴い、留守家庭児童会事業、放課後子供教室事業、放課後校庭開放事業が市の実情に応じた一体的・効果的に実施できるように検証・評価する「寝屋川市放課後子ども総合プラン運営委員会」を設置し、課題や提案、方向性をあらゆる視点で協議を行い、本市が目指すべき放課後子ども総合プランの在り方をまとめた「提言書」が策定された。

<放課後子ども総合プラン運営委員会開催状況>

第 1 回：平成 27 年 7 月 15 日

「寝屋川市放課後児童対策事業の現状について」

第 2 回：平成 27 年 9 月 1 日

「放課後児童対策事業における課題及び提案について、方向性について」

第 3 回：平成 27 年 10 月 1 日

「提言について」

活動指標等	単位	26 年度 (実績値)	27 年度 (実績値)	28 年度 (見込値)	29 年度 (見込値)	30 年度 (見込値)
放課後子供教室実施日数	日	1,979	1,936	2,300	2,500	2,700
放課後子供教室参加者数	人	63,198	60,803	79,000	80,000	81,000

取組内容（活動状況）

＜放課後子供教室実施状況＞

学校名	実施日数	参加者数	学校名	実施日数	参加者数
東小学校	98	2,637	木田小学校	71	3,351
西小学校	53	2,036	神田小学校	90	1,274
南小学校	54	1,557	堀溝小学校	53	770
北小学校	72	3,264	田井小学校	227	6,625
第五小学校	68	2,900	桜小学校	90	2,320
成美小学校	79	2,447	点野小学校	60	3,222
明和小学校	66	1,469	和光小学校	77	5,379
池田小学校	70	2,639	国松緑丘小学校	65	1,467
中央小学校	52	2,495	楠根小学校	70	1,997
啓明小学校	111	2,491	梅が丘小学校	138	2,065
三井小学校	69	1,650	宇谷小学校	64	1,467
木屋小学校	74	3,108	石津小学校	65	2,173
			合計	1,936	60,803

＜放課後校庭開放実施状況＞

学校名	実施日数	参加者数	学校名	実施日数	参加者数
東小学校	57	985	木田小学校	103	12,641
西小学校	89	2,774	神田小学校	121	2,679
南小学校	71	737	堀溝小学校	66	3,366
北小学校	40	941	田井小学校	49	284
第五小学校	121	777	桜小学校	103	4,690
成美小学校	73	2,532	点野小学校	32	716
明和小学校	48	367	和光小学校	85	5,330
池田小学校	75	5,154	国松緑丘小学校	72	400
中央小学校	31	1,025	楠根小学校	126	5,292
啓明小学校	68	3,256	梅が丘小学校	73	886
三井小学校	85	3,142	宇谷小学校	119	1,808
木屋小学校	66	4,897	石津小学校	72	714
			合計	1,845	65,393

評価（Check）

安全で安心な子どもの活動拠点（居場所）を設け、地域人材の参画を得て学習やスポーツ、文化活動、地域住民との交流活動等の取組が推進できた。

また、放課後子ども総合プラン運営委員会において提言が策定され、今後の方向性が示された。

評定

今後の方向性（Innovation）

B	A: 達成している (90%以上)	平成28年度から「放課後子ども総合プラン」実施に伴い、放課後児童対策事業（留守家庭児童会事業、放課後子供教室事業、放課後校庭開放事業）を総合的に検討していくため、モデル校6校において放課後校庭開放事業を放課後子供教室のプログラムの一つとして実施し、拡充を図る。
	B: おおむね達成している (70%以上 90%未満)	
	C: 一部達成であり、課題が残る (50%以上 70%未満)	
	D: 達成できていない (50%未満)	

平成 27 年度における取組状況

構成取組②	留守家庭児童会児童健全育成事業
-------	-----------------

計画 (Plan)

昼間、保護者が就労等により家庭にいない児童に対し、遊び及び生活の場を提供し、子どもの健全な育成を図る。平成 27 年 4 月から市内 12 留守家庭児童会で 6 年生まで受け入れ、午後 7 時までの延長利用を実施する。平成 28 年 4 月から市内全 24 留守家庭児童会で 6 年生まで受け入れるための施設の整備を進めるとともに、児童支援員等の確保及び資質の向上を図る。

取組内容 (Do)

留守家庭児童会入会児童（高学年）の拡充

入会児童の対象を 6 年生まで拡充するに当たり、平成 27 年度は 12 校（田井、石津、三井、東、梅が丘、明和、池田、桜、西、点野、南、楠根）において受け入れを実施した。

留守家庭児童会施設の整備

入会児童の対象拡充や入会児童数の増加に伴い、6 校（池田、北、和光、木屋、中央、神田）において余裕教室等を活用した施設の整備を実施した。

活動指標等	単位	26 年度 (実績値)	27 年度 (実績値)	28 年度 (見込値)	29 年度 (見込値)	30 年度 (見込値)
入会児童数	人	1,664	1,860	2,088	2,198	2,198
実施箇所数	区画	41	45	55	55	55

取組内容（活動状況）

<入会児童数（各年度5月1日現在）>

年 度	1～3年	4～6年	合 計
平成 25 年度	1,511 人	65 人	1,576 人
平成 26 年度	1,601 人	63 人	1,664 人
平成 27 年度	1,754 人	106 人	1,860 人

<延長保育利用者数（5月1日現在）>（平成27年度から実施）

・平成27年度：490人

<職員集合研修の実施状況（平成27年度）>

実施日	研 修 内 容	受講者数
5月 20日	アレルギー疾患と指導上での注意点	76人
6月 3日	高学年児童への指導について	78人
6月 18日	障がいを持つ子ども達への関わり方について	54人
7月 7日	子どもの理解を深めるために	83人
9月 8日	高学年障がい児の生活づくり	77人
10月 8日	留守家庭児童会における指導計画づくり	79人
11月 10日	子ども理解と指導・支援のあり方を深めるために	71人
11月 11日	障がい児ケース研修	68人

評価（Check）

留守家庭児童会の入会児童の対象を6年生まで拡充するにあたり、各小学校の協力により余裕教室を活用することで、市内24校中12校において受け入れを実施した。

また、入会児童数の増加に見合う児童会室の確保については、余裕教室や特別教室を活用する中で整備に取り組み、円滑な運営を行うことができた。

評定

今後の方向性（Innovation）

A	A: 達成している (90%以上)	留守家庭児童会の入会児童の対象を6年生まで拡充するにあたり、残りの12校において受け入れを実施する。 また、入会児童数の増加に見合う児童会室の確保と整備に取り組むとともに、児童支援員の確保及び資質の向上を図る。
	B: おおむね達成している (70%以上90%未満)	
	C: 一部達成であり、課題が残る (50%以上70%未満)	
	D: 達成できていない (50%未満)	

平成 27 年度における取組状況

構成取組③	青少年リーダー育成事業
--------------	--------------------

計画 (Plan)

寝屋川リーダーズ全体の資質向上を図るため、各年代に的確に対応した指導を実施する。

取組内容 (Do)

ユースリーダーによる企画・運営・指導の拡充

小学生及び中高生クラブへの指導や「青少年の居場所」スタッフとして従事したほか、「エンジョイフェスタ」においてこどもコーナーを企画運営したことにより、ユースリーダー個々の資質向上を図った。

併せて、ユースリーダー間で自由に意見交換等を行う交流の場を設置したことにより、課題や目標をリーダー間で共有することができた。

小学生リーダーの養成

市職員によるきめ細かな指導の下、楽しみながら様々な体験・学習をすることにより、学校や学年を越えた協調性や挑戦意欲を培うことができた。

中高生リーダーの養成

キャンプ活動のほか、地域活動やボランティア活動などを通して、メンバー間の信頼関係が構築できたとともに、将来のリーダー的存在として活動するための視野を広げることができた。

青年祭の開催

市内の全高校及び大学が参加したことにより、イベント内容が一層充実した事業となった。

特に、本市はダンスが盛んであることから、著名なプロダンサーによる審査を実施したことにより、例年以上に幅広い層からの参加があった。

活動指標等	単位	26年度 (実績値)	27年度 (実績値)	28年度 (見込値)	29年度 (見込値)	30年度 (見込値)
青少年リーダー登録者数 (ユースリーダー)	人	43	33	43	48	55

取組内容（活動状況）

【青少年リーダー育成事業参加状況】

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
小学生クラブ	14 回 : 367 人	12 回 : 360 人	12 回 : 401 人
中高生クラブ	16 回 : 157 人	15 回 : 124 人	16 回 : 135 人
ユースクラブ	13 回 : 120 人	13 回 : 188 人	9 回 : 111 人

【青年祭参加状況】

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
出演団体数	439 人 (79 団体)	474 人 (59 団体)	375 人 (63 団体)
事業参加者数	1,381 人	1,312 人	1,444 人

評価（Check）

リーダーズの組織化を意識しつつさまざまな事業等に従事したことにより、特にユースリーダーメンバーの資質向上を図ることができた。

小学生クラブや中高生クラブにおいても、リーダー的役割を積極的に果たすメンバーが増えるなど、全体的なレベルアップを図ることができた。

評定

今後の方向性（Innovation）

A	A: 達成している (90%以上)	青少年事業や地域活動を自ら展開できる青少年リーダーを養成するため、年次的な指導計画を立案するなど、更なる資質向上と組織力強化に向けた取組を実施していく。
	B: おおむね達成している (70%以上 90%未満)	
	C: 一部達成であり、課題が残る (50%以上 70%未満)	
	D: 達成できていない (50%未満)	

平成 27 年度における取組状況

構成取組④	青少年の居場所づくり事業
--------------	---------------------

計画 (Plan)

市内在住・在学・在職の青少年同士が気軽に立ち寄り、悩み等を常駐する大学生ボランティアに相談したり、交流できるコミュニケーションの場を提供する。

取組内容 (Do)

青少年（中学生～30歳くらいまで）がふらっと気軽に立ち寄り、自分の居場所を見つけ出し、他の青少年とコミュニケーションを図るとともに、自己肯定感を見出す場として開設した。

<設置場所>

市立池の里市民交流センター 2階

<設置している部屋>

居場所スペース：マンガやテレビを見たり、利用者同士でゲームをするなどの交流の場

活 動 室：ダンスの練習などができる場

自 習 室：宿題や進学のための勉強ができる場

<開設曜日・時間>

- ・学校就業時

水曜日：午後 3 時～午後 7 時

土・日曜日：正午～午後 7 時

- ・学校休業中

水・金・土・日曜日：正午～午後 7 時

活動指標等	単位	26 年度 (実績値)	27 年度 (実績値)	28 年度 (見込値)	29 年度 (見込値)	30 年度 (見込値)
青少年の居場所利用者数	人	6,262	8,643	9,000	9,500	10,000

取組内容（活動状況）

＜利用者数＞
（所属区分別）

年 度	中学生	高校生	大学生	一 般	合 計
平成 25 年度	1,745 人 (42.2%)	2,042 人 (49.4%)	275 人 (6.7%)	69 人 (1.7%)	4,131 人
平成 26 年度	2,750 人 (43.9%)	2,915 人 (46.6%)	451 人 (7.2%)	146 人 (2.3%)	6,262 人
平成 27 年度	5,525 人 (63.9%)	2,138 人 (24.8%)	909 人 (10.5%)	71 人 (0.8%)	8,643 人

（男女別）

年 度	男 性	女 性	合 計
平成 25 年度	2,188 人 (53.0%)	1,943 人 (47.0%)	4,131 人
平成 26 年度	3,200 人 (51.1%)	3,062 人 (48.9%)	6,262 人
平成 27 年度	4,817 人 (55.7%)	3,826 人 (44.3%)	8,643 人

＜開設日数＞

- ・平成 25 年度：149 日
- ・平成 26 年度：149 日
- ・平成 27 年度：150 日

評価（Check）

孤立しがちな青少年が気軽に立ち寄り、利用者同士はもとよりスタッフやコーディネーターとコミュニケーションを図る場として、多くの青少年が利用した。

また、スタッフが自分の得意な分野を利用者に教えるなど、スタッフ自身も人との関わり方などを学ぶことにより、資質向上の機会となった。

評定

今後の方向性（Innovation）

A	A: 達成している (90%以上)	平成 28 年 8 月から現行の施設を拡充し、開設日をフルオープン化するとともに、こどもセンターに新たな青少年の居場所を開設する。
	B: おおむね達成している (70%以上 90%未満)	
	C: 一部達成であり、課題が残る (50%以上 70%未満)	
	D: 達成できていない (50%未満)	

平成 27 年度における取組状況

構成取組⑤	成人式事業
-------	-------

計画 (Plan)

新成人等による実行委員会形式の長所を最大限にいかした事業とするとともに、平成 27 年度は市民会館が耐震工事のため、市民体育館での開催となることから、参加者の交通手段確保や安全対策など円滑な事業実施に努める。

取組内容 (Do)

新成人による第二部の企画・運営の実施

実行委員会による企画案や運営体制案等を尊重しつつ、時宜を得た助言を的確に行い、市四大事業としての品格を持った事業が実施された。

開催会場の変更に伴い、会場設営や新成人の移送手段等を十分検討するとともに、警備員の追加配置や市職員による応援体制を強化し、万全な安全対策に努め、円滑に事業が実施できた。

【主な事業内容】

- 「青年祭」ダンスコンテスト優勝者によるパフォーマンス
- 吉本エンターテイメント所属芸人（2組）による漫才
- 中学生時代の恩師（先生方）からのビデオレター
- 市ふるさと大使である大関豪栄道関からのビデオレター
- 市出身芥川賞作家である又吉直樹氏からのビデオレター

活動指標等	単位	26 年度 (実績値)	27 年度 (実績値)	28 年度 (見込値)	29 年度 (見込値)	30 年度 (見込値)
新成人の出席率	%	65.5	67.1	67.5	68.0	68.5

取組内容（活動状況）

【男女別成人式参加状況】

性別	項目	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
男	対象者数	1,196 人	1,240 人	1,156 人
	出席者数	716 人	796 人	762 人
	出席率	59.9%	64.2%	65.9%
女	対象者数	1,101 人	1,223 人	1,173 人
	出席者	668 人	818 人	800 人
	出席率	60.7%	66.9%	68.2%

評価（Check）

市民体育館での実施であったが、参加者の交通手段や安全対策、会場設営撤去まで大きな混乱等もなく円滑に実施できた。

新成人による実行委員会が企画立案した式典等も、多くの参加新成人が楽しめ、思い出に残る内容となっており、結果的に参加率の向上につながった。

評定

今後の方向性（Innovation）

A	A: 達成している (90%以上)	市広報誌・市ホームページのほか、実行委員会による SNS 運用など、さまざまな手法を活用し、積極的な情報発信を行うことにより、新成人の更なる参加・参画を促進していく。
	B: おおむね達成している (70%以上 90%未満)	
	C: 一部達成であり、課題が残る (50%以上 70%未満)	
	D: 達成できていない (50%未満)	

平成 27 年度における取組状況

構成取組⑥	青少年健全育成推進事業
-------	-------------

計画 (Plan)

青少年健全育成団体である青少年指導員会の活動を効果的に支援し、市委託事業や自主事業を円滑に実施する。

取組内容 (Do)

中学生の主張

事業応募者及び発表会参加者の増加を目指し、公立 12 中学校及び市内私立中学校との連携協力を努めた。

青少年育成促進事業

地域活性化のため、青少年育成事業として各中学校区指導員会が中心となり、デイキャンプやハイキング、スポーツ大会を実施した。

オアシス運動の実施

地域の子どもを見守る身近な大人として、各小中学校においてあいさつ運動を実施するとともに、夜間の見守り活動として地域パトロールを実施した。

活動指標等	単位	26 年度 (実績値)	27 年度 (実績値)	28 年度 (見込値)	29 年度 (見込値)	30 年度 (見込値)
各中学校区の青少年育成促進事業参加者数	人	4,755	5,993	6,000	6,100	6,200
中学生の主張発表会参加者数	人	264	255	300	320	340

取組内容（活動状況）

【青少年健全育成事業参加状況】

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
中学生の主張 応募者数	2,267 人	1,943 人	2,043 人

【青少年育成促進事業実施状況】

中学校区	主な事業内容
第一中学校	東コミセンまつりこどもコーナー運営
第二中学校	桜小秋祭り・池田小秋祭り
第三中学校	ふれあいハイキング・長居公園で知ろう遊ぼう
第四中学校	E-ne 学園ふれあいフェスタ手作りコーナー運営
第五中学校	茶道会
第六中学校	手作り&体験オリンピック
第七中学校	堀溝小デイキャンプ・南小デイキャンプ
第八中学校	校庭キャンプ・西小フェスティバル・点野小フェスティバル
第九中学校	小学生体力測定・わくわくふれあい体験
第十中学校	子どもてづくり教室
友呂岐中学校	デイキャンプ
中木田中学校	花火大会・ドッジボール大会・太鼓・ダンス

評価（Check）

地域諸団体との連携・協働を更に深めたことにより、各種事業で前年度を上回る参加者を確保することができた。

また、各中学校青少年指導員会間の積極的な情報交換を実施した。

評定

今後の方向性（Innovation）

B	A: 達成している (90%以上)	寝屋川市青少年指導員会としての事業を検討するとともに、平成 28 年度新規委嘱者などを中心に、指導員としての資質向上をより一層図っていく。
	B: おおむね達成している (70%以上 90%未満)	
	C: 一部達成であり、課題が残る (50%以上 70%未満)	
	D: 達成できていない (50%未満)	

教育大綱重点取組の総合評価

①放課後子供教室事業	B	⑨	
②留守家庭児童会児童健全育成事業	A	⑩	
③青少年リーダー育成事業	A	⑪	
④青少年の居場所づくり事業	A	⑫	
⑤成人式事業	A	⑬	
⑥青少年健全育成推進事業	B	⑭	
⑦		⑮	
⑧		⑯	
上記については、重点取組内の構成取組における評 定を記入し、評定平均を計算。 評定点数 <u>A = 5</u> 、 <u>B = 3</u> 、 <u>C = 2</u> 、 <u>D = 1</u>		総合評価基準 A：取組評価平均 4.0 以上 B：取組評価平均 2.5 以上 4.0 未満 C：取組評価平均 1.5 以上 2.5 未満 D：取組評価平均 1.5 未満	
評定平均	4.3	総合評価	A
アドバイザーからの意見			
<ul style="list-style-type: none"> 各事業（構成取組）については、市民への説明責任を果たすという趣旨から、どこで、誰が、何をするのかといった基本的な取組内容（事業内容）を整理する必要がある。 			
総合評価			
<p>留守家庭児童会について、小学校 24 校中 12 校において入会児童の対象を 6 年生まで拡大するとともに、入会児童数の増加に伴う施設の整備を実施した。</p> <p>平成 28 年度から放課後子ども総合プランが施行されることに伴い、「寝屋川市放課後子どもプラン運営委員会」を設置し、本市の目指すべきプランの在り方をまとめた「提言書」が策定された。</p> <p>寝屋川リーダーズに対するきめ細かな指導により、ユース・中高生・小学生ともに個人としてのレベルアップを図られ、組織力強化のための基礎を固めることができた。</p> <p>また、青少年の居場所についても、青少年が気軽に立ち寄れる場として、利用者は着実に増加している。</p>			

8 文化芸術の振興

教育大綱重点取組**文化芸術の振興****教育大綱重点取組を推進する体制(構成取組)**

①アルカスホール管理	②文化施策振興事業	

平成 27 年度決算(見込み)

取組に係る費用	単位	平成 27 年度
事業費	千円	75,336

教育大綱実施計画における取組概要(平成 27 年度～30 年度)

地域交流や文化振興の拠点としてアルカスホールをより一層活用するとともに、文化に関するきめ細かな情報発信を行い、文化振興のための環境づくりを推進する。

また、活動・発表・鑑賞の機会の充実を図るとともに、文化芸術活動を担う人材の育成や新たな参加者の獲得など、文化芸術活動の活性化を図る。

教育大綱実施計画における取組の方向性(目標)(平成 27 年度～30 年度)

アルカスホールの稼働率と利便性の向上を図るため、積極的な自主事業の展開や施設のPRが行なわれるよう、指定管理者との連携を推進する。

各文化事業の実施に当たっては、より効果的・効率的な実施に努めるとともに、「アルカスピアノコンクール」や「ミュージカル寝屋のはちかづき」など、魅力ある事業の検討を進める。

成果・効果等を表す取組指標

指標名	単位	平成 27 年度		
		目標値	実績値	達成度コメント
アルカスホールの入場者数	人	75,800	84,891	メインホール稼働率が前年度比で約10%上昇していることから、ホール利用者の主催イベントの動員が大幅に増加したものと考えられる。
文化振興事業の参加者数	人	56,700	47,021	2事業の開催がなかったことや市民ギャラリーの入場者数が見込みを下回ったためと考えられる。

平成 27 年度における取組状況

構成取組①	アルカスホール管理
-------	-----------

計画 (Plan)

アルカスホールの稼働率向上を図る効果的な自主事業の展開などが行われるよう、指定管理者との連携を密にする。

取組内容 (Do)

指定管理者の選定

指定管理者選定委員会を設置し、株式会社アステムを平成 28 年度からの指定管理者に選定した。

アルカスホールの稼働率向上を図る効果的な自主事業の展開などが行われるよう、定例会議等を通じて指定管理者と検討・協議を行った。

特に、アルカスピアノコンクールやミュージカル寝屋のはちかづきなどの市事業の開催を通じて、ホールの積極的な活用を図った。

活動指標等	単位	26 年度 (実績値)	27 年度 (実績値)	28 年度 (見込値)	29 年度 (見込値)	30 年度 (見込値)
アルカスホールの稼働率	%	55.5	56.7	61.0	62.0	63.0

取組内容（活動状況）

＜地域交流センター（アルカスホール）利用状況＞

	平成25年度		平成26年度		平成27年度	
	使用回数 (回)	入場者数 (人)	使用回数 (回)	入場者数 (人)	使用回数 (回)	入場者数 (人)
メインホール	162	31,927	195	39,271	227	44,914
ギャラリーなど その他施設	1,212	31,289	1,166	35,847	1,167	39,977
合計	1,374	63,216	1,361	75,118	1,394	84,891

平成25年度	メインホール稼働率	47.5%	全施設稼働率	56.1%
平成26年度	メインホール稼働率	57.0%	全施設稼働率	55.5%
平成27年度	メインホール稼働率	66.2%	全施設稼働率	56.7%

＜自主事業の実施状況＞

平成25年度	27事業	4,824人
平成26年度	29事業	5,636人
平成27年度	31事業	6,820人

評価（Check）

アルカスホールの指定管理者と月例報告会など積極的な意見交換を行うことにより、効率的・効果的な管理運営が図られた。

評定

今後の方向性（Innovation）

B	A: 達成している (90%以上) B: おおむね達成している (70%以上 90%未満) C: 一部達成であり、 課題が残る (50%以上 70%未満) D: 達成できていない (50%未満)	稼働率については、新たな指定管理者との連携を密にし向上を図る。また、市民が気軽に利用できる施設となるよう市の文化振興の指導的立場を発揮していく。
----------	---	--

平成 27 年度における取組状況

構成取組②	文化施策振興事業
-------	----------

計画 (Plan)

「市民文化祭」や「市民たそがれコンサート」、「寝屋川ミュージックデー」などを引き続き開催し、市民の自主的な文化芸術活動を支援する。

アルカスホールのスタインウェイピアノをより一層活用するため、全国から参加がある「アルカスピアノコンクール」を開催する。

「ミュージカル寝屋のはちかづき」を開催し、児童の鑑賞機会の充実や地域文化の振興を図る。

取組内容 (Do)

アルカスピアノコンクールの開催

平成 27 年 10 月から予選を開始し、12 月の本選を経て、平成 28 年 3 月に上位入賞者によるウィナーズコンサートを開催した。

「市民たそがれコンサート」や「市民文化祭」、「寝屋川ミュージックデー」を引き続き実施し、様々な文化の活動・発表・鑑賞の機会を提供した。

なお、「アルカスピアノコンクール」については、全国 20 都府県からの参加者があった。また、ミュージカル「寝屋のはちかづき」については、新たな人材発掘に向けた出演者オーディションを行った。

活動指標等	単位	26 年度 (実績値)	27 年度 (実績値)	28 年度 (見込値)	29 年度 (見込値)	30 年度 (見込値)
アルカスピアノコンクール入場者数	人	3,117	3,262	3,300	3,400	3,500

取組内容（活動状況）

＜主な文化施策振興事業の参加状況＞（人）

		平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
市民たそがれコンサート		529	1,067	555
市民文化祭		9,720	10,560	9,876
寝屋川ミュージックデー		2,241	2,258	2,191
アルカスピアノコンクール参加者		635	577	667
ミュージカル 「寝屋のはちかづき」	小学 4年生	2,073	1,900	1,801
	一般	601	595	587
市美術公募展 (入選作品展) ※隔年		—	796	—
寝屋川音楽祭～クラシック in ねやがわ～※隔年		—	813	—

評価（Check）

各事業において安定した集客を得ることができ、市民の文化芸術活動の活性化に寄与することができた。

特に、全国規模の「アルカスピアノコンクール」やプロによる本格的なミュージカル「寝屋のはちかづき」の実施によって、音楽文化の振興や鑑賞機会の充実を図ることができた。

評定

今後の方向性（Innovation）

B	A: 達成している (90%以上)	<p>今後、文化に関わる後継者の育成を視野に入れた魅力ある事業を検討しながら、市民の活動・発表・鑑賞機会の充実を図るとともに、市にとって新たな文化の振興の礎となるものを発掘していく。</p>
	B: おおむね達成している (70%以上 90%未満)	
	C: 一部達成であり、 課題が残る (50%以上 70%未満)	
	D: 達成できていない (50%未満)	

教育大綱重点取組の総合評価

①アルカスホール管理	B	⑨	
②文化施策振興事業	B	⑩	
③		⑪	
④		⑫	
⑤		⑬	
⑥		⑭	
⑦		⑮	
⑧		⑯	
<p>上記については、重点取組内の構成取組における評 定を記入し、評定平均を計算。</p> <p>評定点数 A = 5、B = 3、C = 2、D = 1</p>		<p>総合評価基準</p> <p>A：取組評価平均 4.0 以上</p> <p>B：取組評価平均 2.5 以上 4.0 未満</p> <p>C：取組評価平均 1.5 以上 2.5 未満</p> <p>D：取組評価平均 1.5 未満</p>	
評定平均	3	総合評価	B
アドバイザーからの意見			
<ul style="list-style-type: none"> 「アルカスホール管理」については、活動指標等でホールの稼働率が示されているが、全国的な同様（同規模）の公設ホールでの稼働率も勘案し、目標数値を設定していくことが重要である。 指定管理者導入施設については、その運用が適切・効果的にされているかどうか併せて実績検証をすることが重要である。 			
総合評価			
<p>多様な文化振興事業の実施やアルカスホールとの連携を通じて、市民の活動・発表・鑑賞の場や情報の提供を行うとともに、人材・団体などを育成・支援するなど、市民が自主的に文化活動を行うための環境づくりを進めることができた。</p>			

9 スポーツ活動の振興

教育大綱重点取組**スポーツ活動の振興****教育大綱重点取組を推進する体制(構成取組)**

①生涯スポーツ事業	②競技スポーツ事業	③市民体育館管理運営事業

平成 27 年度決算(見込み)

取組に係る費用	単位	平成 27 年度
事業費	千円	129,238

教育大綱実施計画における取組概要(平成 27 年度～30 年度)

誰もがそれぞれのライフスタイルや目的に合わせ、生涯にわたり、スポーツに親しめる環境の充実を図るとともに、競技スポーツの振興、競技力向上を目指した取組を推進する。

教育大綱実施計画における取組の方向性(目標)(平成 27 年度～30 年度)

生涯スポーツへの参加機会の充実に努めるとともに、より高いレベルの競技者の育成を目指し、競技スポーツの振興を図る。

また、利用者が安全で快適に利用できるよう、市民体育館の整備・充実に努めるとともに、市民ニーズに応じ、施設の利活用を図る。

成果・効果等を表す取組指標

指標名	単位	平成 27 年度		
		目標値	実績値	達成度コメント
各種スポーツ事業の参加者数 (エンジョイフェスタを除く)	人	25,500	28,033	各種スポーツ大会や教室、ハーフマラソン等の事業参加者が年々増加傾向にあり、市民がスポーツに親しめる環境が充実しつつある。
市民体育館の延利用者数	人	175,600	164,795	平成 25 年度に施工した耐震工事の影響もあり、一時的に利用者数は減少していたが、工夫を凝らした事業を行うことで回復傾向に転じてきたと思われる。

平成 27 年度における取組状況

構成取組①	生涯スポーツ事業
-------	----------

計画 (Plan)

生涯スポーツへの参加機会の充実に努めるため、スポーツリーダーズバンク登録者による各種スポーツ教室を開催するとともに、寝屋川ハーフマラソンやエンジョイフェスタ in ねやがわを開催し、市民が気軽にスポーツ活動に親しむ機会の充実に取り組む。

取組内容 (Do)

寝屋川ハーフマラソンへの支援

平成 28 年 2 月 28 日に実施された 2016 寝屋川ハーフマラソン（第 4 回）において、実行委員会を組織し、円滑に事業が実施できるように支援を行った。

一般道をコースとしており、イオン四條畷店のオープンにより、一部変更の可能性もあったが、警察及び事業者との協議を行うことで前年度どおりのコース設定となり、ランナー募集、ボランティア募集及び警備・設営撤去等にかかる委託事務に関しても適切に支援することができた。

エンジョイフェスタ in ねやがわの開催

平成 27 年 10 月 18 日に実施したエンジョイフェスタ in ねやがわにおいて、社会教育団体で実行委員会を組織し、打上川治水緑地を会場に、子どもから高齢者までが楽しむことのできるプログラムを提供し、主旨としている生涯学習の普及推進・地域コミュニティの活性化を図ることができた。

活動指標等	単位	26 年度 (実績値)	27 年度 (実績値)	28 年度 (見込値)	29 年度 (見込値)	30 年度 (見込値)
寝屋川ハーフマラソン参加者数	人	5,569	5,898	5,950	6,000	6,000
エンジョイフェスタ in ねやがわ参加者数	人	28,302	28,742	29,000	29,500	30,000

取組内容（活動状況）

〈寝屋川ハーフマラソン参加者数〉

種目等		人数
健康マラソン(1.5 km)	小学低学年	169 人
	ファミリー	602 人
健康マラソン(3 km)	小学高学年男女	193 人
	中学生男女	49 人
	一般男女	181 人
クォーターマラソン	一般男女	895 人
	一般男女(50歳以上)	284 人
ハーフマラソン	一般男女	2,699 人
	一般男女(50歳以上)	826 人
寝屋川ハーフマラソンランナー合計		5,898 人
寝屋川ハーフマラソンボランティア合計		1,398 人

〈エンジョイフェスタ in ねやがわ参加者数〉

種目等	人数	種目等	人数
団体競技	4,038 人	遊びコーナー・舞台	5,865 人
昼間アトラクション	192 人	第2会場観客者数	4,200 人
チャレンジ・アトラクション	8,466 人	スタッフ等	481 人
第1会場観客者数	5,500 人	参加者数合計	28,742 人

評価（Check）

寝屋川ハーフマラソンにおいては、北海道から沖縄に至るまで日本全国から参加される事業となっており、また、多くのボランティアに支えられ、沿道の声援も素晴らしいとのランナーからの声も聞いている。

また、エンジョイフェスタ in ねやがわにおいては、スポーツ基本法第23条に規定される「体育の日の行事」として、スポーツを基軸とした事業を実施し、多くの市民がスポーツに触れる機会を設けることができた。

評定		今後の方向性（Innovation）
A	A: 達成している (90%以上)	寝屋川ハーフマラソンにおいては、全国的な事業となりつつあり、本市における「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の一つとして、より充実した事業となるよう支援をしていく。
	B: おおむね達成している (70%以上 90%未満)	
	C: 一部達成であり、課題が残る (50%以上 70%未満)	
	D: 達成できていない (50%未満)	

平成 27 年度における取組状況

構成取組②	競技スポーツ事業
-------	----------

計画 (Plan)

競技スポーツの普及、競技力の向上を目指し、高いスポーツ技術に触れる機会と指導の充実を図る。

取組内容 (Do)

市民体育大会及び北河内・府大会等の開催

競技スポーツの普及を図るため、「寝屋川市民体育大会」として総合開会式を皮切りに 20 種目 22 競技を市民体育館や寝屋川公園、淀川河川公園で開催した。

また、寝屋川市民体育大会成績優秀者を北河内体育振興会と共催実施する「北河内地区総合体育大会」及び大阪府体育連合と共催実施する「大阪府総合体育大会」へ派遣し、競技力向上に繋げることができた。

活動指標等	単位	26 年度 (実績値)	27 年度 (実績値)	28 年度 (見込値)	29 年度 (見込値)	30 年度 (見込値)
寝屋川市民体育大会参加者数	人	6,442	6,747	6,900	7,200	7,500
北河内・府等体育大会等参加者数	人	545	607	650	700	750

取組内容（活動状況）

〈寝屋川市民体育大会参加者数〉

種目	参加者数	種目	参加者数	種目	参加者数
サッカー	144人	グラウンド・ゴルフ	301人	少林寺拳法	129人
テニス	106人	バスケットボール	230人	剣道	88人
インディアカ	63人	卓球	68人	マラソン	146人
バウンドテニス	110人	陸上競技	345人	駅伝競走	110人
バレーボール	461人	柔道	153人	ソフトボール	580人
ゲートボール	41人	ソフトテニス	78人	軟式野球	2,255人
ソフトバレー	120人	バドミントン	82人	空手道	326人
レスリング	521人	総合開会式	290人	参加者合計	6,747人

〈北河内・府等体育大会等参加者数〉

事業名	参加者数
大阪府総合体育大会	144人
大阪府市町村対抗駅伝競走大会	23人
北河内地区総合体育大会	411人
北河内地区駅伝競走大会	26人
三島・北河内対抗柔道大会	3人
北河内・府等参加者合計	607人

評価（Check）

様々なスポーツ種目において競技力向上を目指し、事故もなく大会を実施することができた。また、北河内や大阪府とも協力しながら、より高い技術が求められる大会にも本市市民の代表として派遣することができた。

評定

今後の方向性（Innovation）

B	A: 達成している (90%以上)	<p>現在は、市民の中で競技力向上のためのスポーツ大会を実施しているが、今後はよりレベルの高い技術に触れる機会を設け、本市市民がオリンピックや全国大会に参加していけるような施策の構築を目指す。</p>
	B: おおむね達成している (70%以上 90%未満)	
	C: 一部達成であり、課題が残る (50%以上 70%未満)	
	D: 達成できていない (50%未満)	

平成 27 年度における取組状況

構成取組③	市民体育館管理運営事業
-------	-------------

計画 (Plan)

利用者が安全で快適に利用できるよう、市民体育館の指定管理者と連携し、整備・充実に取り組む。

取組内容 (Do)

市民体育館改修工事の実施

市民体育館の躯体にかかる工事として、受変電設備改修工事を施工するとともに、利便性を向上するための環境整備として、手摺改修・自動ドア改修・小体育室空調設備設置工事を施工した。またスポーツ器具整備として、バスケットゴール改修工事の施工及びランニングマシン等購入を行った。

〈市民体育館利用者数〉
(利用状況)

室名	団体		個人	合計	利用率 (%)
	件数	利用者数			
大体育室	1,499 件	55,113 人	161 人	55,274 人	84.2
小体育室	550 件	7,608 人	3,399 人	11,007 人	79.1
トレーニング室	—	—	35,174 人	35,174 人	100
卓球室	650 件	6,723 人	12,302 人	19,025 人	97.5
剣道場	839 件	23,522 人	266 人	23,788 人	73.6
柔道場	458 件	12,345 人	448 人	12,793 人	58.9
会議室	293 件	6,241 人	—	6,241 人	31.1
研修室	110 件	1,493 人	—	1,493 人	13.4
合計	4,399 件	113,045 人	51,750 人	164,795 人	69.1

(個人利用内訳)

区分	利用人数	割合
一般	17,917 人	34.6%
幼児・児童・生徒	1,989 人	3.8%
高齢者(60歳以上70歳未満)	13,297 人	25.7%
無料(70歳以上)	18,547 人	35.8%
合計	51,750 人	100%

活動指標等		単位	26年度 (実績値)	27年度 (実績値)	28年度 (見込値)	29年度 (見込値)	30年度 (見込値)
市民体育館大体育室利用率		%	83.6	84.2	85.4	87.3	89.2
評価 (Check)							
<p>平成 25 年度に耐震工事を施工し、平成 26 年度は利用者数が伸び悩む状況であったが、指定管理者によりヨガやピラティス等の新たなスポーツ教室を実施するとともに、夏休みには小中学生に会議室を開放し、宿題教室を実施するなど、利用者回復に努めることができた。また利用者の利便性の向上を図るための備品購入、環境整備にも努めることができた。</p>							
評定		今後の方向性 (Innovation)					
B	A: 達成している (90%以上)	<p>市民体育館については、昭和 49 年に建設されており、毎年の維持修繕に加え、大規模な工事の施工も必要となっており、今後の修繕計画を早急に策定し、年次的な環境整備を図っていく。</p>					
	B: おおむね達成している (70%以上 90%未満)						
	C: 一部達成であり、課題が残る (50%以上 70%未満)						
	D: 達成できていない (50%未満)						

教育大綱重点取組の総合評価

①生涯スポーツ事業	A	⑨	
②競技スポーツ事業	B	⑩	
③市民体育館管理運営事業	B	⑪	
④		⑫	
⑤		⑬	
⑥		⑭	
⑦		⑮	
⑧		⑯	
上記については、重点取組内の構成取組における評 定を記入し、評定平均を計算。 評定点数 <u>A = 5</u> 、 <u>B = 3</u> 、 <u>C = 2</u> 、 <u>D = 1</u>		総合評価基準 A：取組評価平均 4.0 以上 B：取組評価平均 2.5 以上 4.0 未満 C：取組評価平均 1.5 以上 2.5 未満 D：取組評価平均 1.5 未満	
評定平均	3.7	総合評価	B
アドバイザーからの意見			
<ul style="list-style-type: none"> 今後とも各事業の推進に努めていただきたい。 			
総合評価			
<p>市民のスポーツ活動を推進するために、見て楽しみ、行って楽しみ、支える視点から誰もがスポーツに親しめる機会の提供に努めることができた。また市民体育館を含む社会体育施設において、利用者が安全で快適に活動できるよう環境整備にも努めることができた。今後は、2020 東京オリンピック・パラリンピックを見据えた競技スポーツ振興並びに施設修繕計画に基づく更なる環境整備を目指していく。</p>			

10 学習活動の充実

教育大綱重点取組	学習活動の充実
-----------------	----------------

教育大綱重点取組を推進する体制(構成取組)

①日本語よみかき促進事業	②成人教育講座事業	③まちのせんせい活用事業
④生涯学習推進事務	⑤利用者サービス事業	⑥ICT化推進事業
⑦子ども読書活動推進事業	⑧読書普及啓発事業	⑨障害者・高齢者・多文化サービス事業

平成 27 年度決算(見込み)

取組に係る費用	単位	平成 27 年度
事業費	千円	51,416

教育大綱実施計画における取組概要(平成 27 年度～30 年度)

誰もが、いつでも、どこでも学習活動に取り組むことができる学習の場を整備するとともに、幅広い学習情報を提供し、学習機会の確保に取り組む。
また、地域人材の養成や市民が学び得た成果を通じて地域に還元していく取組を進める。

教育大綱実施計画における取組の方向性(目標)(平成 27 年度～30 年度)

施設の老朽化対策を進めることで、市民が安全で快適な学習活動ができる場所の確保や環境整備を図るとともに、情報誌やホームページなどの媒体を一層活用し、学習情報と学習機会の充実を図る。
また、まちのせんせいの活用による人材の養成やニーズに応じた生涯学習の充実及び読書活動の推進により、市民の学習活動意欲の活性化を図る。

成果・効果等を表す取組指標

指標名	単位	平成 27 年度		
		目標値	実績値	達成度コメント
市民一人当たりの生涯学習活動回数	回	7.8	7.8	アルカスホールメインホールなどの施設の入場者数が約 1 万人増加したため、目標値を達成することができた。

平成 27 年度における取組状況

構成取組①	日本語よみかき促進事業
-------	-------------

計画 (Plan)

日常生活において、日本語のよみかきを必要とする市民に対し、習得の機会を提供する。日本語入門テキストや教材を中心に、おおむね週 1 回の昼夜各 2 時間の授業で年間 88 回開講する。

取組内容 (Do)

日本語よみかき学級の実施

日本語の習得を必要とする市民に、週に 1 回、昼と夜の部（年間 88 回）に学習をする機会を設け、本市で生活・就労等する上で、よみかき、会話でコミュニケーションが円滑に図れるよう取り組んでいるほか、5 月には大阪くらしの今昔館への課外学習や文化交流会、年末お楽しみ会の開催、また、北河内識字・日本語交流会に参加した。

そのほか、学習者のニーズに応えられるように教本の充実を図ったり、指導者全体会議を年に 6 回、指導者研修会を 3 回実施して、指導者のスキルアップを図った。

活動指標等	単位	26 年度 (実績値)	27 年度 (実績値)	28 年度 (見込値)	29 年度 (見込値)	30 年度 (見込値)
延べ受講者数	人	693	607	800	850	900

取組内容（活動状況）

<平成 27 年度>

回数	昼・夜 各 44 回	受講者数	73 名（11ヶ国）
延べ受講者数	607 名（88 回）	延べ保育者数	17 名（9 回）
課外学習	大阪くらしの今昔館		18 名
北河内交流会	交野市立保健福祉総合センター		21 名

<国別登録者数>

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
中国	19 人	14 人	13 人
フィリピン	4 人	3 人	5 人
タイ	4 人	7 人	11 人
韓国	2 人	0 人	0 人
インドネシア	10 人	8 人	20 人
ブラジル	1 人	0 人	0 人
ベトナム	14 人	10 人	14 人
スリランカ	1 人	1 人	1 人
ペルー	2 人	2 人	3 人
アメリカ	0 人	0 人	1 人
バングラデシュ	2 人	0 人	0 人
日本	2 人	1 人	1 人
ラオス	1 人	0 人	0 人
マレーシア	1 人	1 人	0 人
モロッコ	0 人	0 人	1 人
ネパール	0 人	0 人	3 人
その他	0 人	4 人	0 人
合計	63 人	51 人	73 人

評価（Check）

受講者の学習状況に応じて、日本語入門テキストや各種教材を中心に指導を行い、生活する上で、言葉やよみかきでコミュニケーションが円滑に図れるように取り組んだ。

また、課外学習や文化交流会、北河内識字・日本語交流会の参加で、教室では味わえない日本の文化や体験活動にふれながら、日常学習では時間帯が別々の学習者や講師が一緒になって交流を深めることができた。

評定

今後の方向性（Innovation）

B	A: 達成している (90%以上)	学習指導・運営体制を確立していくため、事務局とコーディネーター、スタッフとの会議やスキルアップのための研修を継続して行っていく必要がある。
	B: おおむね達成している (70%以上 90%未満)	
	C: 一部達成であり、課題が残る (50%以上 70%未満)	
	D: 達成できていない (50%未満)	

平成 27 年度における取組状況

構成取組②		成人教育講座事業				
計画 (Plan)						
市立校園 PTA 協議会や各コミュニティセンター、ふらっとねやがわと連携しながら、市民ニーズに合致したテーマでの学習機会の提供を図り、幅広い視野と豊かな感性を培う。						
取組内容 (Do)						
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">市内公共施設での共同実施</div> <p>市立校園 PTA 協議会や各コミュニティセンター運営協議会等と共催したことにより、各地域の特色を活かした講座を開催することができ、市民ニーズを反映した様々な学習の機会を提供できた。</p>						
活動指標等	単位	26 年度 (実績値)	27 年度 (実績値)	28 年度 (見込値)	29 年度 (見込値)	30 年度 (見込値)
成人教育講座参加者数	人	840	766	920	940	960

取組内容（活動状況）

＜平成 27 年度＞

テーマ	開催日	講師	会場(参加者数)
盆踊り講習会	平成 27 年 6 月 27 日(土)・ 7 月 18 日(土)	中本 美智子	南コミセン (36 人・34 人)
おもしろ京都、 再発見	平成 27 年 9 月 14 日(月)	吉岡 一秋	南コミセン (32 人)
韓国料理	平成 27 年 9 月 15 日(火)	山口 ゆかり	西北コミセン (21 人)
陶芸講習会	平成 27 年 9 月 17 日(木)	原口 幸子	南コミセン (12 人)
笑いヨガ教室	平成 27 年 9 月 29 日(火)	須飼 利恵子	西南コミセン (29 人)
健康体操	平成 27 年 10 月 8 日(木)	井上 利光	西北コミセン (36 人)
折紙教室	平成 27 年 11 月 8 日(日)	駒井 靖彦	西コミセン (37 人)
おもしろ京都、 再発見	平成 27 年 11 月 19 日(木)	吉岡 一秋	東北コミセン (41 人)
男の料理	平成 27 年 11 月 24 日(火)	上田 龍男	西南コミセン (10 人)
デートDVを知 っていますか	平成 27 年 11 月 28 日(土)	原田 薫	ふらっとねやがわ (14 人)
パン作り講習会	平成 28 年 1 月 27 日(水)・ 2 月 3 日(水)	森脇 郁子	西南コミセン (10 人・ 10 人)
教育講演	平成 28 年 1 月 28 日(木)	尾木 直樹	アルカスホール(444 人)

5 コミセン 12 講座と、市 PTA 1 講座、ふらっとねやがわ 1 講座の 14 講座実施（参加者数合計 766 人）

評価（Check）

コミュニティセンターにおいて、講座開催回数の違いがあるものの、コミュニティセンターやふらっとねやがわと連携することで、その地域におけるニーズに合わせた講座を開催することができた。また、講座の受講者向けのアンケートでも、どの講座においても好評で、今後における継続と発展の期待も大きかった。

評定		今後の方向性（Innovation）
B	A: 達成している (90%以上)	市民ニーズに対応した講座の開催をバランスよく、積極的に進めていくために、アプローチの仕方や働きかけを工夫しながら、市民ニーズに的確に応えられるよう各コミュニティセンターやふらっとねやがわとの連携を密に図っていく必要がある。
	B: おおむね達成している (70%以上 90%未満)	
	C: 一部達成であり、 課題が残る (50%以上 70%未満)	
	D: 達成できていない (50%未満)	

平成 27 年度における取組状況

構成取組③	まちのせんせい活用事業
-------	-------------

計画 (Plan)

自己の得意な技術や知識をいかし、市域における生涯学習活動・学校教育活動等を支援するために、「まちのせんせい」を養成し、人的資源の活用、市民の協働参画を推進する。

取組内容 (Do)

まちのせんせい体験講習会実施

まちのせんせい活用事業では、新たに 12 人が登録した。
また、保育所・幼稚園・小学校・中学校・福祉施設等へ積極的に活用の PR を行うために、実践発表会やまちのせんせい体験講習会をコミュニティセンターで開催した。

活動指標等	単位	26 年度 (実績値)	27 年度 (実績値)	28 年度 (見込値)	29 年度 (見込値)	30 年度 (見込値)
まちのせんせい登録者数	人	116	128	130	135	140
まちのせんせい派遣依頼件数	件	116	122	126	132	138

取組内容（活動状況）

< 事業実績 >

項目	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	
まちのせんせい 活用事業	登録者数	107 人	116 人	128 人
	派遣依頼件数	103 件	116 件	122 件
	派遣人数	98 人	91 人	80 人
	主な指導内容	マジック・体操・ハンドベル・アロマテラピー等		
主な派遣先	子ども会、自治会、老人会、保育所、幼稚園、幼児サークル、小学校、PTA、放課後子ども教室、公共施設、高齢者施設			

評価（Check）

まちのせんせいは、5人以上の団体でなければ派遣できないが、体験講習会をコミュニティセンターで実施し、1人からでも体験できる機会を作り、複数のまちのせんせいに実演してもらい、宣伝活動を行うことで利用者から好評を得た。

評定

今後の方向性（Innovation）

B	A: 達成している (90%以上)	依頼内容に偏りがあるので、未派遣のまちのせんせいの活用と、まちのせんせい同士の交流や人材育成、周知啓発に努めていく。
	B: おおむね達成している (70%以上 90%未満)	
	C: 一部達成であり、課題が残る (50%以上 70%未満)	
	D: 達成できていない (50%未満)	

平成 27 年度における取組状況

構成取組④	生涯学習推進事務
-------	----------

計画 (Plan)

生涯学習情報誌を始め、ホームページや市広報紙を一層活用し、学習に関する情報を幅広く提供することで、学習の機会を確保する。

取組内容 (Do)

学習情報誌の発行

市民の生涯学習活動を支援するため、各種講座やイベントの行政情報を提供する「講座・イベント編」、学習活動を行う団体やサークルの情報を提供する「団体・サークル編」の2種類の生涯学習情報誌（ねやがわ生涯学習あんない）を発行した。

活動指標等	単位	26年度 (実績値)	27年度 (実績値)	28年度 (見込値)	29年度 (見込値)	30年度 (見込値)
学習情報誌への掲載講座数	講座	726	702	710	715	720

取組内容 (活動状況)

<生涯学習情報誌発行数・掲載情報数>

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
発行冊数	5,700 冊	5,700 冊	5,700 冊
掲載団体数	938 団体	916 団体	947 団体
掲載講座数	711 講座	726 講座	702 講座

評価 (Check)

生涯学習情報誌を発行するとともに、その内容をホームページや市広報紙に掲載し、幅広い情報提供を図ることにより、市民の生涯学習を支援することができた。

評定		今後の方向性 (Innovation)
A	A:達成している (90%以上)	団体数が年々増えていることもあり、その時々での最新情報に留意しながら、生涯学習情報誌の内容の充実を図る必要がある。
	B:おおむね達成している (70%以上 90%未満)	
	C:一部達成であり、課題が残る (50%以上 70%未満)	
	D:達成できていない (50%未満)	

平成 27 年度における取組状況

構成取組⑤	利用者サービス事業
-------	-----------

計画 (Plan)

中央図書館・東図書館・寝屋川市駅前図書館、コミュニティセンター分室、移動図書館により図書館サービスを実施している。

安全・快適な読書環境を提供することにより、市民の生涯学習の意欲向上に資するため、東図書館リニューアル事業、学習室リニューアル事業を実施する。

取組内容 (Do)

中央図書館学習室リニューアル事業

更に快適な学習環境を提供するため、学習室のリニューアルを実施した。

東図書館リニューアル事業

市民会館耐震補強工事に併せて、東図書館の書架の耐震固定及びリニューアルを実施した。

コミュニティセンター4分室（西北・東北・南・西南）の書架の耐震固定を行った。

活動指標等	単位	26年度 (実績値)	27年度 (実績値)	28年度 (見込値)	29年度 (見込値)	30年度 (見込値)
貸出延べ利用者数	人	302,129	299,358	302,600	303,200	303,800
学習室利用者数	人	—	—	27,400	30,800	32,500

取組内容（活動状況）

【図書館貸出冊数】

	平成 25 年度	平成 26 年度	対前年比	平成 27 年度	対前年比
中央図書館	506,277	463,339	91.5%	525,031	113.3%
東図書館	220,534	216,860	98.3%	51,342	23.7%
駅前図書館	324,961	353,886	108.9%	428,232	121.0%
全館	1,255,505	1,242,475	99.0%	1,214,068	97.7%

※耐震工事により東図書館は平成 27 年度 9 か月間休館した。

※全館には、中央・東・駅前図書館のほかコミュニティセンター 4 分室・移動図書館・団体貸出も含む。

評価（Check）

中央図書館では、学習室の壁や床の張り替えと、照明の LED 化、学習機の個人スペース確保等のリニューアルにより快適な学習環境が提供できた。

東図書館では、市民会館の耐震補強工事に併せて、書架の耐震固定を行い利用者の安全確保に努めるとともに、机や椅子をリニューアルし、快適な閲覧スペースを提供できた。

コミュニティセンター 4 分室の書架についても耐震固定を行い、利用者の安全確保に努めた。

評定

今後の方向性（Innovation）

A	A: 達成している (90%以上)	<p>図書館サービスの維持向上、専門性の継承を図るため、図書館運営の在り方を検討する。</p> <p>施設及び備品の老朽化が著しい中央図書館の長寿命化及びリニューアルについて、時期・規模・レイアウト等を、今後の人口推計等の社会情勢を含め検討する。</p>
	B: おおむね達成している (70%以上 90%未満)	
	C: 一部達成であり、課題が残る (50%以上 70%未満)	
	D: 達成できていない (50%未満)	

平成 27 年度における取組状況

構成取組⑥	ICT 化推進事業
-------	-----------

計画 (Plan)

図書館業務の効率化、市民サービスの維持向上のため、図書館システムの更新を行う。利用者の利便性向上と予約受付事務の軽減に効果のある図書館資料の WEB 予約の利用者拡大に努める。

取組内容 (Do)

図書館システムの更新

図書館業務の効率化及び市民サービス向上のため、図書館システム更新に向けた新システムの在り方、内容等について検証した。

利用者の利便性の向上と予約受付事務の軽減に効果のある WEB 予約の利用者拡大のため周知を図った。

活動指標等	単位	26 年度 (実績値)	27 年度 (実績値)	28 年度 (見込値)	29 年度 (見込値)	30 年度 (見込値)
個人貸出冊数	冊	1, 199, 387	1, 173, 725	1, 235, 200	1, 236, 400	1, 237, 600
貸出予約に占める WEB 予約率	%	48. 0	49. 0	49. 0	49. 5	50. 0

取組内容（活動状況）

<個人貸出冊数>

（単位：冊）

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
中央図書館	506,277	463,339	525,031
東図書館	220,534	216,860	51,342
駅前図書館	324,961	353,886	428,232
分 室	154,574	150,474	154,554
移動図書館	14,899	14,828	14,566
総 計	1,221,245	1,199,387	1,173,725

分室は西北・南・東北・西南4分室の合計冊

<WEB 予約サービスの状況>

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
予約受付数（件）	204,152	209,837	211,655
内 WEB 予約数（件）	96,957 (47%)	100,706 (48%)	103,625 (49%)

評価（Check）

図書館業務の効率化及び市民サービス向上のため、新たな図書館システムの検討を行った。

窓口等での啓発を行い、WEB 予約の周知を図ったことにより、インターネットによる予約登録数及び予約受付数が増加した。

評定

今後の方向性（Innovation）

B	A: 達成している (90%以上)	利用者の利便性の向上や図書館業務の効率化に向けて図書館システム更新を検討する。 ICT 化を進めるために、新たな技術について検討を続ける。 WEB 予約促進に向けて、更に周知を図る。
	B: おおむね達成している (70%以上 90%未満)	
	C: 一部達成であり、課題が残る (50%以上 70%未満)	
	D: 達成できていない (50%未満)	

平成 27 年度における取組状況

構成取組⑦	子ども読書活動推進事業
-------	-------------

計画 (Plan)

子ども読書活動の更なる推進のため、第2次寝屋川市子ども読書活動推進計画を策定し、計画に基づき子どもの読書活動推進施策を実施する。

取組内容 (Do)

第2次寝屋川市子ども読書活動推進計画の策定

子ども読書活動推進計画策定委員会を4回開催し、第2次子ども読書活動推進計画の策定に向けた審議を行った。

子ども読書活動推進施策実施

子ども読書活動推進計画（以下「第1次計画」という。）から継続している、子ども読書活動推進施策を実施した。

活動指標等	単位	26年度 (実績値)	27年度 (実績値)	28年度 (見込値)	29年度 (見込値)	30年度 (見込値)
児童書の貸出冊数	冊	380,387	383,708	396,800	397,600	398,400

取組内容（活動状況）

<子ども読書活動推進事業実績>

事業名	開催回数	参加者数/贈呈数
子ども読書活動推進啓発講座 (4回×3講座)	12回	延べ422人
絵本で子育てにこにこ赤ちゃん	51回	1,397人
保育所でのブックスタート	66回	4,236人
絵本を贈ろう事業（4か月児）	30回	1,839冊

<団体貸出の貸出冊数>

	平成25年度	平成26年度	平成27年度
貸出冊数	34,260冊	43,088冊	40,343冊
学校園所	35校園所	38校園所	45校園所
地域文庫の団体数	5団体	1団体	1団体
その他の団体数	58団体	49団体	51団体

評価（Check）

第1次計画から実施している子ども読書活動推進事業を継続実施するとともに、第2次子ども読書活動推進計画を検討することで、一層の読書普及効果につながった。

評価	今後の方向性（Innovation）
B	<p>第2次子ども読書活動推進計画に基づき、更なる子どもの読書活動推進のため、事業を実施していく。</p> <p>特に、学校教育分野への連携も深め、学校司書研修等の支援を通じて児童生徒の読書活動を推進する。</p>
A: 達成している (90%以上)	
B: おおむね達成している (70%以上 90%未満)	
C: 一部達成であり、課題が残る (50%以上 70%未満)	
D: 達成できていない (50%未満)	

平成 27 年度における取組状況

構成取組⑧	読書普及啓発事業
--------------	-----------------

計画 (Plan)

知識の習得や読書による充実した時間を過ごしていただくため、多様な読書ニーズを踏まえた本の情報を提供する。

また、図書館で講演会やイベント等を行い、より多くの市民に図書館を知ってもらおうよう努める。

取組内容 (Do)

読書普及啓発事業

本展（時期に応じたテーマごとの本を展示紹介すること）の実施や新刊本・ベストリーダー（最も読まれている本のランキング）の紹介等を行った。

図書館を活用してのコンサートや講演会等を開催することで、より多くの市民に図書館を知ってもらうことで、市民の読書活動へつながる取組を行った。

また、本市出身の又吉直樹氏（第 153 回芥川賞受賞）、本市在住の門井慶喜氏（直木賞候補）の紹介コーナーを設置し、市民の読書意欲を喚起した。

< 講座・講演会等参加者数 >

名称	参加者数
ビジネス支援講座「大阪から世界企業を創った人たち」全 2 回	66 人
歴史講演会「大坂の陣を駆け抜けた武将たち」	51 人

< コンサート参加者数 >

名称	参加者数
アンクルンコンサート	100 人
津軽三味線コンサート	115 人

活動指標等	単位	26 年度 (実績値)	27 年度 (実績値)	28 年度 (見込値)	29 年度 (見込値)	30 年度 (見込値)
講座・講演会の参加者数	人	103	117	120	125	130

評価 (Check)	
市民の読書活動推進のため、図書館でのコンサートや講演会等を開催し、新たな図書館利用者の拡大に努めた。	
評価	今後の方向性 (Innovation)
B A: 達成している (90%以上) B: おおむね達成している (70%以上 90%未満) C: 一部達成であり、課題が残る (50%以上 70%未満) D: 達成できていない (50%未満)	これまでに行った取組の他にビブリオバトルの定期開催等の新たな取組を加え、市民の読書活動推進に努める。

平成 27 年度における取組状況

構成取組⑨	障害者・高齢者・多文化サービス事業
-------	-------------------

計画 (Plan)

障害や加齢、言語の違いにより読書にハンディのある利用者に対して、点字・録音図書の提供や拡大読書器・音声読書機の利用サービスを行う。また、利用者の国際化に対応するため外国語資料の収集と提供に努める。

取組内容 (Do)

点字図書の作成

視覚障害者向け点字・録音図書の作成を市民団体との協働で行い、平成 27 年度は、点字図書 106 巻、テープ図書 2 巻、デイジー図書 48 巻を作成した。

また、作成した点字・録音図書の目録を視覚障害者や視覚障害者団体に配布し、利用促進を図った。

外国語資料の収集

外国語を母語とする人が図書館に来館してもらえるよう、外国語原書の資料収集を行った。

活動指標等	単位	26 年度 (実績値)	27 年度 (実績値)	28 年度 (見込値)	29 年度 (見込値)	30 年度 (見込値)
点字・録音図書の貸出し	巻	1,519	1,508	1,540	1,570	1,600
外国語資料の冊数	冊	1,143	1,173	1,203	1,233	1,263

取組内容（活動状況）

<点字・録音図書貸出数>

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
点字図書	10(25)	15 (51)	46 (151)
テープ図書	216 (1, 257)	189 (1, 288)	171 (1, 024)
デージー図書	173(173)	180(180)	333 (333)

※各数値は、タイトル数（巻数）

評価（Check）

視覚障害者向け点字・録音図書の作成を市民団体との協働で作成し、作成した点字・録音図書の目録を視覚障害者や視覚障害者団体に配布し、利用促進を図ることができた。

利用者の国際化に対応した外国語資料の収集を行った。

評定

今後の方向性（Innovation）

A	A:達成している (90%以上)	点字・録音図書の作成をお願いしている市民団体の活動を支援し、視覚障害者サービスの維持に努める。 外国語原書の蔵書を増やし、周知に努める。
	B:おおむね達成している (70%以上 90%未満)	
	C:一部達成であり、課題が残る (50%以上 70%未満)	
	D:達成できていない (50%未満)	

教育大綱重点取組の総合評価

① 日本語よみかき促進事業	B	⑨障害者・高齢者・多文化サービス事業	A
② 成人教育講座事業	B	⑩	
③ まちのせんせい活用事業	B	⑪	
④ 生涯学習推進事務	A	⑫	
⑤ 利用者サービス事業	A	⑬	
⑥ ICT化推進事業	B	⑭	
⑦ 子ども読書活動推進事業	B	⑮	
⑧ 読書普及啓発事業	B	⑯	
<p>上記については、重点取組内の構成取組における評 定を記入し、評定平均を計算。</p> <p>評定点数 A = 5、B = 3、C = 2、D = 1</p>		<p>総合評価基準</p> <p>A：取組評価平均 4.0 以上</p> <p>B：取組評価平均 2.5 以上 4.0 未満</p> <p>C：取組評価平均 1.5 以上 2.5 未満</p> <p>D：取組評価平均 1.5 未満</p>	
評定平均	3.7	総合評価	B
アドバイザーからの意見			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 評価の根拠については、事業の参加者アンケートや実績など、定量的に示すことのできる内容を根拠にする必要がある。 			
総合評価			
<p>市民のニーズに対応した各種講座（日本語よみかき学級・成人教育講座・まちのせんせいの活用事業）を実施し、生涯学習を推進することができた。</p> <p>また、生涯学習情報誌の発行など学習の機会や情報の提供を行うことができた。</p> <p>読書活動の推進については、東図書館及び中央図書館学習室をリニューアルし、安全で快適な読書環境の整備を行った。第2次子ども読書活動推進計画の策定に取り組んだ。</p>			